



地域社会の共感を獲得するために 自ら汗をかくボランティアを实践

東京都 株式会社ミリオンインターナショナル 「(株)ミリオンインターナショナル における社会貢献活動」事業



株式会社ミリオンインターナショナル
代表取締役社長
小島豊さん

選考理由

若者たちの貧困が報じられる今、次代を背負う若者たちの育成のために、社会福祉団体と共に「返済無しの奨学金プログラム」創設、支援。余り玉や端玉賞品の一部を基金として活用するなど優れた工夫をしている。

また、地元市民が楽しみにしている高円寺地区の阿波おどり祭りに従業員がボランティア参加し「ホール」が地元民に歓迎され、親しまれる存在になっている。そのほか、心身障がい者施設や養護施設、また、盲導犬育成施設への継続的支援など多岐にわたる福祉貢献をしていることは賞賛に値する。



社会貢献活動審査委員会
委員
永井 多恵子氏

地域とともに歩むことをモットーに 自己成長の機会としてボランティアを

東京都と埼玉県で13ホールを展開する株式会社ミリオンインターナショナルでは、企業理念に「地域社会すべての人々に共感していただける企業を目指す」という「共感経営」を掲げ、パチンコファンのみならず、地域社会から必要とされる企業を目指している。その姿勢が顕著に表われているのが、同社が取り組んでいる様々な社会貢献活動だが、「当社では広告協賛や寄付・寄贈といった経済的支援に加え、ボランティア活動への参加などを含め、可能な限り人的協力、すなわち自分たちで汗をかくことにしています。と言うのも、よりよい街づくりに貢献していくには、地域の皆様とのコミュニケーションを通じて、ともに歩んでいく姿勢が大切だと考えているからです」と、同社の社会貢献活動の窓口となっている経営管理グループの佐藤初巳さんは話す。

こうした姿勢は同社代表をはじめとする上層部が率先して社会貢献活動に取り組んでいることの影響や共感に基づくものだが、「ほとんどの社員がボランティア活動への参加経験がありますが、純粋に自分自身の経験、自己成長の機会と捉えて参加しているようです」と、佐藤さん。自ら汗をかくことを大切にする同社の社会貢献活動に対する姿勢は、東日本大震災の際に東京都遊技業協同組合が実施した「石巻湊地区ボランティア隊派遣」事業に参加したのべ242名の組合員中、51名が同社の社員やアルバイトスタッフであったことにも示されている。



ホールに設置されたpp奨学金の募金箱



「東京高円寺阿波おどり」では、広告協賛ほかゴミ回収や誘導など人的支援も実施



「島田療育センター」のわいわい祭りに守る会の一員として社員が参加

pp奨学金、阿波おどり、福祉施設支援など 様々な社会貢献活動を継続的に実施

現在、同社が取り組んでいる社会貢献活動の代表的なものには、全日遊連阿部理事長、日遊協深谷前会長が遊技業界に呼びかけ「社会福祉法人さほうと21」とともに立ち上げた「pp奨学金(パチンコ・パチスロ奨学金)」への協力がある。これはホールを訪れる遊技客の善意によって得られた余り玉(メダル)や端玉賞品取引額の一部を募金として活用し、経済的に就学が困難な学生に、就学支援として返済義務のない給付型の奨学金を支援するもので、同社店舗内にも専用の募金箱が設置され、2016年12月の事業発足から現在までに総額237万3,930円を寄付している。

また、2009年の高円寺店出店以来、継続しているのが、東京3大祭りの一つ「東京高円寺阿波おどり」への広告協賛と、期間中のごみ回収、参加者の誘導、水分供給などにボランティアスタッフとして参加していることである。毎年、社内でボランティアスタッフの公募を行うというが、公休で構わないので参加したいという申し出が多いという。大きなイベント時だけでなく、毎日、商店街の清掃活動も続けていることもあり、しっかりと地域と良好な関係を築いていることがうかがえる。

この他にも、1961年に当時の都遊連日本橋組合組合長の故・島田伊三郎氏が私財を投じて提供した土地にできた、我が国初の重症心身障がい者施設「島田療育センターを守る会(松下恵代表)」の一員として継続して資金支援するとともに、施設の夏の催事である「わいわい祭り」で模擬店を運営するなどのボランティアにも取り組んでいる。さらに、10年ほど前に当時の練馬区・氷川台店の店長が始めた児童養護施設「錦華学院」への日用品・文具などの寄付を近隣4店舗とともに毎月行ったり、埼玉県・朝霞店で定期的に開催しているフリーマーケットの収益金を盲導犬育成団体「アイメイト協会」へ継続的に寄付している。